



1984



1985



1988



1989



1988



1989



1989



1996



1999



2000



2000



2001



2002



2003



2005



2007



2008



2012



2014



2014



2015

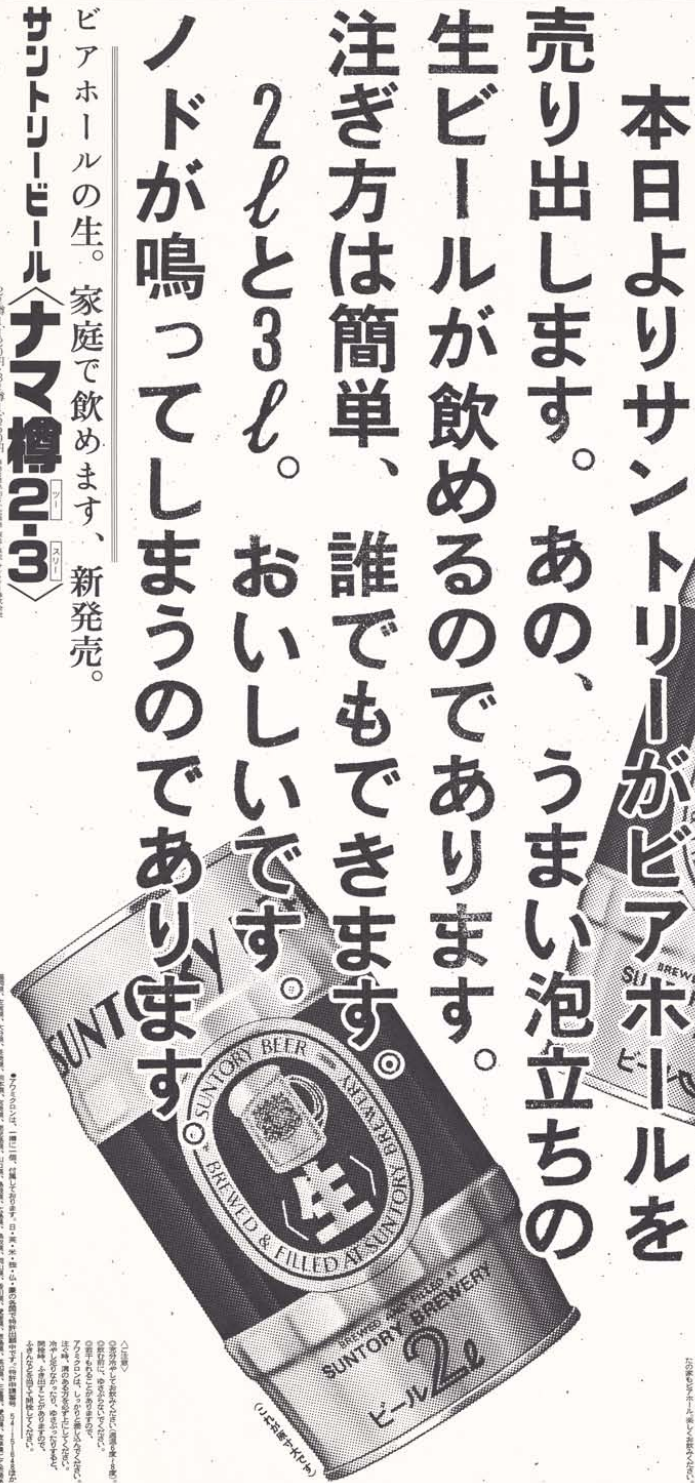
時代の空気。副田高行がつくった新聞広告100選。

主催：日本新聞博物館・副田デザイン制作所 後援：日本グラフィックデザイナー協会 協賛：(株)第一製版
 ●トークショー：4月7日(土)14:00-16:00(児島令子×副田高行) 5月19日(土)14:00-16:00(前田知巳×副田高行)
 (開催日の2週間前土曜日12:00受付開始。先着120名。詳細・応募は <https://soedataalk.peatix.com/> まで)

2018年3月31日(土)ー7月1日(日) 10:00ー17:00 (入館は16:30まで・初日のみ閉館12:00)
 N ニュースパーク(日本新聞博物館)2階企画展示室
 3月31日(土)ー5月13日(日)(前半/1980ー2000) 5月15日(火)ー7月1日(日)(後半/2001ー2017)
 休館日：月曜日(祝日・振替休日の場合は次の平日) 入館料：一般 400円 大学生 300円 高校生 200円
 中学生以下無料 同時開催：企画展「よみがえる沖縄1935」(朝日新聞社・沖縄タイムス社など主催)
 住所：〒231-8311 神奈川県横浜市中区日本大通11 横浜情報文化センター 電話番号：045-661-2040 アクセス：みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口センター口直結 JR・横浜市営地下鉄「関内駅」から徒歩10分 くわしくはホームページをご覧ください。

時代の空気。副田高行が つくった新聞広告100選。

いま、新聞広告が元気がないなかで。あえて、新聞広告だけを見てもらおう、とおもったのです。「サントリービール ナマ樽」の新聞広告でデビュー(?)して、ながいことアートディレクターをつづけています。なかでも、私の仕事の中心はずっと、新聞広告でした。1980年の「サントリービール ナマ樽」から、2017年の「横浜BAY QUARTER」まで。40年ちかくもずつつくってきました。サン・アド、仲畑広告制作所、そして副田デザイン制作所と。制作の場はかわっても、新聞広告ひとすじにやってきました。商品よりのものから、企業メッセージをつたえるもの。いろんな会社といろんな商品に出あい、いい仕事にめぐまれました。モノクロームの時代から、カラーのデジタル製版まで。15段(全頁)広告を中心に、年代順にならべました。新聞広告の技術の変遷でもあり、日本という社会の歴史でもあります。時代の空気がうつっています。かつて新聞広告は、広告の中心でした。広告クリエイティブは若わかしく、自由だった気がします。表現にも大胆さがありました。企業にも商品にも元気があったのでしょう。広告の名作は、お正月の新聞広告のなかから生まれました。そんな広告をみて育った私は、刺激をうけながら制作にはげみました。そして気がついたら、アートディレクターとして社会にでて、50年になりました。やれやれ。というわけで。ここはひとつ、私のつくってきた新聞広告たちをみてもらおう。新聞広告が減少しているいま、新聞広告はこのままなくなってしまうのか。新聞から広告がなくなれば、新聞もなくなるかもしれない。いや、そりゃまずい。広告が、生活者への幸福の手紙であるならば。ちゃんと効きめのある、人の心にふれる表現だったら、新聞広告は復活する。制作者(と企業)の情熱で、広告はよみがえる。生かすも殺すも表現しだいなんだと。もういちど一枚紙の力を、クリエイティブの力を、新聞広告の価値をたしかめたい。と、私はおもったのです。(副田高行)



本日よりサントリーがビアホールを
売り出します。あの、うまい泡立ちの
生ビールが飲めるのであります。
注ぎ方は簡単、誰でもできます。
2ℓと3ℓ。おいしいです。
ノドが鳴ってしまっているのであります。

ビアホールの生。家庭で飲めます、新発売。
サントリービール ナマ樽 2ℓ 3ℓ

1980